



まちづくりの方針

私たちは「未来を創る人を育み、だれもが学び、楽しみ続けられるまち」をめざします

G1

基本施策

長崎のまちを愛し、新たな時代を生き抜く子どもを育みます

個別施策

- G1-1 「確かな学力」の向上を図ります
- G1-2 健やかな心と体を育成します
- G1-3 家庭・学校・地域の連携による教育の充実を図ります
- G1-4 安全・安心に学べる教育環境を整備します

G2

基本施策

だれもが生涯を通じていきいきと学べる社会をつくります

個別施策

- G2-1 学びの場と機会の充実を図ります
- G2-2 能力や経験が社会に活かされる仕組みをつくります

G3

基本施策

スポーツ・レクリエーションの振興を図ります

個別施策

- G3-1 スポーツ・レクリエーションをする場と機会の充実を図ります
- G3-2 スポーツをみる機会の創出と競技者の支援を図ります

G4

基本施策

芸術文化あふれる暮らしを創出します

個別施策

- G4-1 芸術文化に触れる機会を創出します
- G4-2 市民の自主的な芸術文化活動の活性化を図ります

基本計画で定めた各種施策を達成するための具体的な事業計画を示した「実施計画書」はこちら



G4 芸術文化あふれる暮らしを創出します

文化振興課

2025年度にめざす姿（なにか、どうなっている）

対 象	意 図
市民が	芸術文化を楽しみ、心豊かに生活している。

めざす姿を達成するための個別施策

- G4-1 芸術文化に触れる機会を創出します
- G4-2 市民の自主的な芸術文化活動の活性化を図ります

成果指標

成果指標	基準値	目標値
芸術文化を鑑賞する市民の割合	51.2% (R元年度)	55.0% (R7年度)
芸術文化活動を行う市民の割合	18.6% (R元年度)	20.0% (R7年度)

関連するSDGs



2025年度にめざす姿（なにが、どうなっている）

対 象	意 図
市民が	様々な芸術文化に身近に触れている。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

うまくいっていること

- 様々なジャンルのワークショップが増え、芸術文化に触れる機会が増えた。
- コロナ禍の中、市民文化団体や市民演奏家等と連携を取って、新しい生活様式にあった方法でコンサート等を実施することができた。
- 長崎ブリックホールやチトセピアホールなど、新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインを策定し、安全に施設を利用できるようにした。

II うまくいっていないこと、弱み、脅威

うまくいっていないこと

- 学校では、生の演奏を聴かせる機会が少なく、体験型の取組みも減っている。
- 自主文化事業*の若い世代の参加者が少ない。
- 長崎市公会堂の廃止や、長崎ブリックホールの経年劣化に伴う大規模修繕等により、市民が芸術文化に触れる機会が減少していることから、新たな文化施設の整備が求められている。

脅威

- 新型コロナウイルス感染症拡大により、一部の事業が実施できないなど多大な影響が生じている。



III 取組方針

①市民が身近に芸術文化に触れる機会の創出

- 子どもや学校を対象とした事業を継続して実施するとともに、子どもから大人まで幅広い市民が鑑賞・参加し、楽しむことができる自主文化事業の充実を図ります。
- 子どもや親子を対象にした事業を行うなど、子どもの頃から芸術文化に親しみ、楽しむことができる機会を拡大します。
- オンライン開催や新しい生活様式での事業実施などのノウハウを市民文化団体とも共有し、最終的にはコロナ禍以前の状態に戻すことを目標に、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、市民が様々な芸術文化に触れる機会を創出します。

②新たな文化施設の整備に向けた検討

- 新たな文化施設の早期整備に向けて取り組みます。

関連するSDGs



関連する計画等

- 市民文化活動振興プラン
- 新たな文化施設基本構想
- アクションプラン



音楽アウトリーチ

* 自主文化事業
長崎市が主催する芸術文化事業。

2025年度にめざす姿（なにか、どうなっている）

対 象	意 図
市民が	自主的な芸術文化活動を活発に行っている。

現状分析と取組方針

I うまくいっていること、強み、チャンス

うまくいっていること

- 市民文化団体と連携し、市民の芸術文化活動の発表の機会を設け、個人や団体が自主的に芸術文化活動を行う機会を創出できている。
- 音楽、演劇、舞踊、美術など様々な分野の市民文化団体同士が共同して事業を行うなど、ジャンルを超えたつながりができている。
- 市民文化団体等と連携し、子ども向けのプログラムを作るなど、音楽分野の普及に向けた新たな取組みを実施している。
- 市民文化団体や民間のアイデアを活かし、新しい形式の事業を実施している。

II うまくいっていないこと、弱み、脅威

うまくいっていないこと

- 長崎市公会堂の廃止に伴い、市民が芸術文化活動を発表する場が減少している。
- サポーターの新規登録が少なく、登録メンバーの高齢化により、ボランティアスタッフの登録者数が減少している。

脅威

- 高齢化により、担い手としての活動ができなくなる人が増える一方、人口減少により活動人口が少なくなる中、新たな担い手の確保が難しくなっており、芸術文化の担い手が不足している。
- 新型コロナウイルス感染症拡大により、市民文化団体等による芸術文化活動が制限されるなど多大な影響が生じている。



III 取組方針

① 市民参加・普及啓発型事業の展開

- 子どもや親子向け事業の充実や、参加者が少ない若者向けの事業を企画することで、芸術文化活動を再開したり、新たに始める人を増やします。

② 市民の自主的な芸術文化活動を活性化する取組み

- 芸術文化専用ホームページ「ながさき文化のひろば」を活用した市民文化団体の紹介などの情報発信、団体同士の交流につながる場の提供などにより、市民活動をより活発化させるとともに、芸術文化活動に関わる市民の増加につなげます。
- 部活動以外で芸術文化分野の全国大会等に出場する子どもたちの芸術文化活動を奨励することで大人になっても芸術文化活動を続ける市民を増やします。
- ボランティアスタッフの活動の魅力を高め、登録者数の増加に努めます。
- 最終的にはコロナ禍以前の状態に戻すことを目標に、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、芸術文化活動を行う市民や団体が活躍できる場を創出します。

関連するSDGs



関連する計画等

- 市民文化活動振興プラン
- アクションプラン



子ども演劇体験教室